

韓国環境部プレスリリース 2020 年 1 月 3 日付

京畿道漣川郡野生いのしし弊死体から ASF ウイルス検出  
(野生いのしし 57 例目)

<http://www.me.go.kr/home/web/board/read.do?pagerOffset=0&maxPageItems=10&maxIndexPages=10&searchKey=&searchValue=&menuId=286&orgCd=&boardId=1164300&boardMasterId=1&boardCategoryId=&decorator=>

環境部所属国立環境科学院(院長チャン・ユンソク)は京畿道 (キョンギド)、漣川郡 (ヨンチョンゴン) で発見された野生いのしし死体から ASF ウイルスが検出されたと 1 月 3 日明らかにした。

死体は 1 月 2 日漣川郡 (ヨンチョンゴン) 中面の民間制限線内の山で農業従事者によって発見された。漣川郡 (ヨンチョンゴン) は ASF 標準行動指針により試料を採取して現場消毒と共に死体処理を行った。

国立環境科学院は 1 月 3 日、死体から ASF ウイルスが検出されたことを関係機関に通知した。漣川郡 (ヨンチョンゴン) で 20 番目の野生いのしし ASF 確定診断となり、全国的には 57 件になった。

国立環境科学院生物安全研究チーム長は"今回の死体は民間制限線内 2 次フェンスの中で発見された。軍部隊と協力してこの地域で野生いのししの死体捜索をより一層強化する"と話した。

以上